

早稲田大学大学院文学研究科

哲学コースの受験をお考えの方へ

古代・中世・近代・現代（英・独・仏）のスタッフを揃え、倫理学・美学・宗教学の研究態勢をも整えてきた哲学コースは、この数年間、新任教員を迎え、従来の態勢を維持しつつ、新たな哲学研究の展開を開始しています。

教員紹介

哲学コース専任教員をご紹介します。

伊藤 遼 准教授 近現代英米哲学

岩田 圭一 教授 西洋古代哲学

鹿島 徹 教授 哲学

小林 信之 教授 美学、感性文化研究、現代哲学

小村 優太 准教授 アラビア哲学、宗教哲学、宗教学

辻内 宣博 准教授 中世哲学

西山 達也 教授 フランス近現代哲学

御子柴善之 教授 カントを中心としたドイツ近現代哲学、倫理学

村松 聡 教授 現代倫理学、応用倫理学

矢内 義顯 教授 キリスト教学、宗教学、宗教哲学

(参考 URL : <https://dpt-philosophy.w.waseda.jp/%e6%95%99%e5%93%a1%e7%b4%b9%e4%bb%8b/>)

哲学コースで設置している講義・演習の内容についての情報は、早稲田大学 Web シラバス (<https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php?pLng=jp>) にて検索することができます。哲学コースの設置科目すべてを検索したい場合は、検索画面の「学部」の選択項目のなかから「文研」を選び、次いで、「科目管理主体」の選択項目のなかから「哲学コース」を選び、検索を実行してください。哲学コースが管理主体となっている全科目の情報が表示されます。

博士・修士論文（過去 9 年分）

過去 9 年間の哲学コースにおける博士・修士論文題目となります。大学院生がどのような研究を行っているのかを知るための目安にしてください。

2023 年度博士論文
カント、フィヒテに依拠した「力動的自我論」の研究
カント対象論の研究
モーリッツ・ガイガーの現象学と美学
2023 年度修士論文
レヴィナスにおける「享受」の分析
人格の生と事前指示——クヴァンテの人格概念を参考に——
擬ディオニュシオス・アレオパギテースにおける「神の名」
2022 年度博士論文
予定調和の哲学——1686 年から 1705 年にかけて、G.W.ライプニッツは知的交流に基づき、どのように真理へと接近したのか——
2022 年度修士論文
ジンメルと「形而上学的憧憬」の問題
現存在の超越について
2021 年度博士論文
マイスター・エックハルトにおける知性論の研究——トマス主義と新プラトン主義のはざま——
2021 年度修士論文
ディートリッヒ・ボンヘッフアーにおける信仰と行為
自由意志と実践理性
2020 年度修士論文
ハイデガーの「存在史的思索」における古代ギリシア哲学との対決——形而上学の新たな生起のため
ジャック・デリダ『声と現象』研究——時間とエクリチュールについて
カント哲学における「自由」の概念について
2019 年度修士論文
ハイデガーにおける真理と芸術——ピュシス概念を中心にして
カント理論哲学と「形式」主義の問題
Plato on Self-Knowledge in the <i>First Alcibiades</i>
2018 年度博士論文

マイスター・エックハルトの非トマス的な存在理解についてーガンのヘンリクスの影響関係を踏まえて
ハイデガーと時間性の哲学——根源・派生・媒介
2018 年度修士論文
『形而上学』A 卷 7 章と 9 章の読解
ためらい論
メルロ = ポンティ研究
カント倫理学における道徳的行為の主観的源泉
2017 年度修士論文
ペルクソンによる哲学とその外部
ショーペンハウアー音楽論の限界と可能性
カール・ヤスパースにおける限界状況
現代日本社会における承認の位置づけ
実践的自由としての外的自由
カント理論哲学における自我の問題
カント「超越論的論理学」の言語哲学的解釈
プラトン『ピレボス』における「四分類」と「偽の快樂」の関係について
2016 年度博士論文
ヤスパース倫理学の射程——〈実存倫理〉から〈理性倫理〉へ
フッサール現象学における普遍性の問題
2016 年度修士論文
権力と歴史
現存在と存在論
レヴィナスにおける「分離」の問題
2015 年度修士論文
サルトルの他者概念
ライプニッツの自然哲学——生物学の方法論的原理と生物種の問題
無性——『存在と時間』における自己伝承の根拠

(参考 URL : <https://dpt-philosophy.w.waseda.jp/%e5%ad%a6%e4%bd%8d%e8%ab%96%e6%96%87/>)

早稲田大学哲学会

学内外の哲学研究者から構成される学会で、主に大学院修士課程以上の方が入会しています。学部生の方も、学部会員として入会することや、大会等に参加することが可能です。興味のある方は、ぜひ大会や講演会等に参加してみてください。大学院生や先生方の具体的な研究に触

れる良い機会となります。大会などの日程については、ホームページ (<https://dpt-philosophy.waseda.jp/%e6%97%a9%e5%a4%a7%e5%93%b2%e5%ad%a6%e4%bc%9a/>) をご覧ください。

早稲田大学哲学会大会

早稲田大学哲学会が主催する大会です。例年、7月初旬に開催され、研究発表やシンポジウムが行われます。特に参加料等は必要ありませんので、興味のある方はぜひ参加し、生きた研究の現場に触れてみてください。

春季・秋季研究発表会

博士後期課程在籍者は、この研究発表会で博士論文の構想を発表し、様々な分野の研究者から貴重な意見を得ることができます。

春季・秋季研究フォーラム

哲学コースの修士課程在籍者が研究発表を行う場として、年に2回開催されます。修士課程在籍中に研究成果を発表する機会を得ることで、より主体的・計画的に自身の研究を進めることが可能となります。また、修士論文への足掛かりとしても、大変有効です。

研究誌

哲学コースでは、三種の研究誌を発行しています。早稲田大学図書館や哲学コース室にバックナンバーが揃っていますので、興味のある方はぜひ手にとって読んでみてください。

『フィロソフィア』

早稲田大学哲学会が年に1回発行する機関誌であり、査読付きの学術雑誌です。掲載論文等の詳細についてはホームページ (<https://dpt-philosophy.waseda.jp/%e6%a9%9f%e9%96%a2%e8%aa%8c/>) を参照してください。

『哲学世界』『哲学世界 別冊』

ともに年に1回発行され、大学院生（修士課程・博士後期課程）や哲学コース出身の研究者、哲学コースの教員が寄稿を行う雑誌です。修士課程在籍者は在籍1年目から論文掲載の機会を得ることで、修士論文執筆に先駆けて、論文発表の経験を積むことができます。

哲学コース奨学金

哲学コース独自の奨学金制度です。本コースの博士後期課程に在籍する者のうち、各人の研究分野において優れた業績をあげた者に毎年3名まで支給されます。詳細はホームページ

(<https://dpt-philosophy.waseda.jp/%e5%a5%a8%e5%ad%a6%e9%87%91/>) をご覧ください。

TA・LA

哲学コースでは、本コース院生に対して、学部学生の授業支援や自主学修支援のアルバイト募集を随時行っています。

哲学コース室

哲学コースでは、本コースの大学院生が利用できるよう、事典・辞書類をはじめとする書籍や、印刷機・スキャナー、オンライン発表用機器等の備品を哲学コース室（戸山キャンパス 33 号館 501・502）に用意しています。また、哲学コース室 1（33 号館 501）は、哲学コース学生を代表者として申請することで読書会等に利用することが可能です。読書会等の情報については、哲学コースホームページをご覧ください。

先輩からのメッセージ

下記のサイトでは哲学コースを含め、文学研究科の修士課程を経て社会で活躍する先輩や在学生の声を紹介していますので、ぜひ参考にしてみてください。

<https://www.waseda.jp/flas/glas/about/students/>

以上が哲学コースについての概要となります。少しでも関心を持たれた方や、教員とコンタクトを取ることを希望される方は、哲学コース室までお問い合わせください。コース室のメールアドレスは Philosophy.web@list.waseda.jp となります。